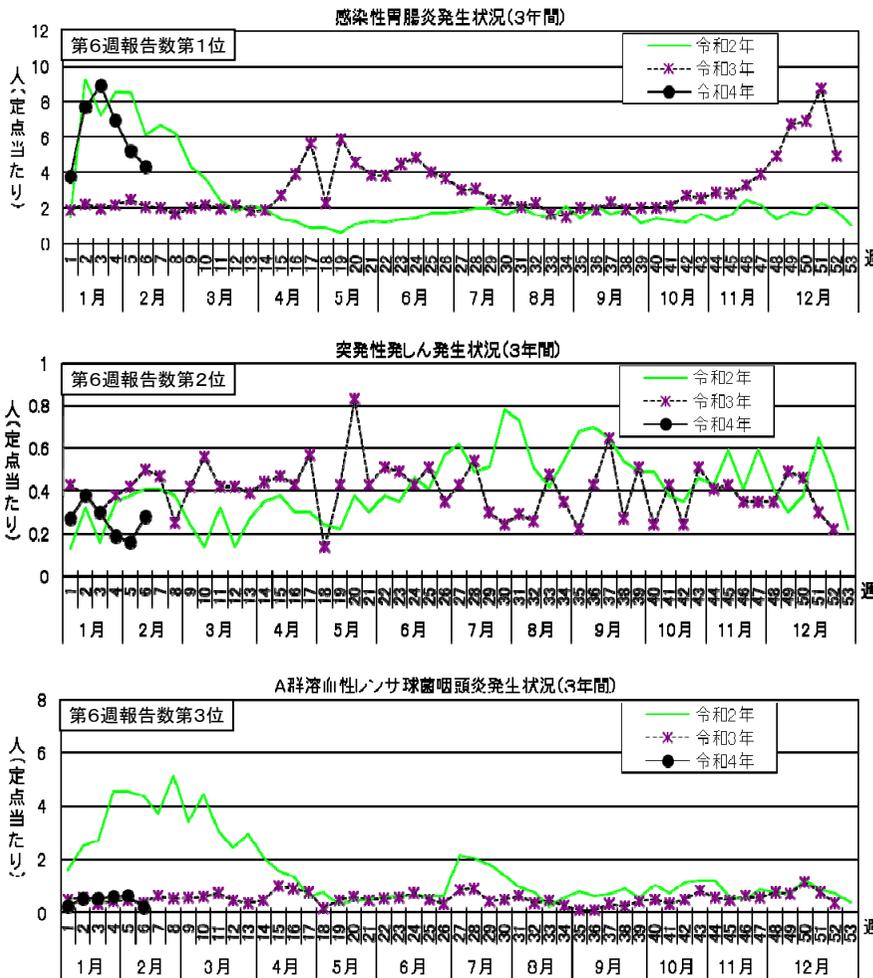


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年2月7日（月）～令和4年2月13日（日）〔令和4年第6週〕の感染症発生状況

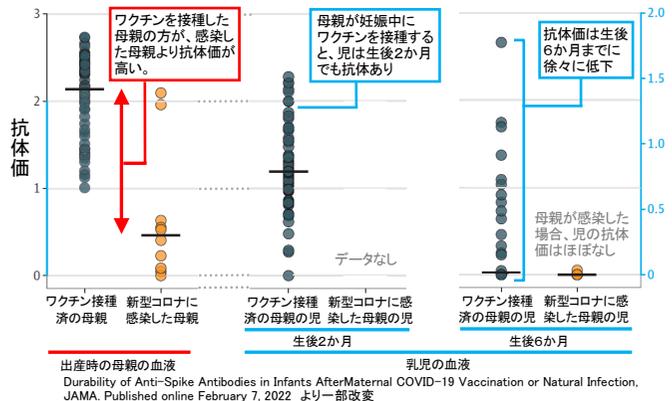
第6週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.33人と前週（5.27人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.28人と前週（0.16人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.19人と前週（0.62人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～妊婦の方もワクチンを～

新型コロナウイルス感染症は、妊婦が妊娠後期に感染すると、早産率が高まり、妊婦自身も一部は重症化すると報告があります。そのため、妊娠を計画している方を含めて、妊娠中及び授乳中の方も、新型コロナワクチンの接種推奨の対象となっています。さらに、母親が妊娠中にワクチンを接種した場合は、妊娠中に新型コロナウイルスに感染した場合と比べて、産まれた児の抗体価が高いことが海外のデータで示されています。妊娠中のワクチン接種は母児ともに有効とされており、時期を問わず接種可能ですので、是非御検討ください。また、妊婦の感染は、約8割が夫あるいはパートナーからの感染といわれていますので、夫、パートナー及び同居の方も早めに接種をしましょう。

新型コロナワクチン接種後又は新型コロナウイルス感染後の母親及び出生した乳児における抗体価



妊婦の新型コロナワクチンQ&A

Q. ワクチン接種後の発熱や痛みに対し、解熱鎮痛剤を使用してもよいですか？

アセトアミノフェンは服用可能です。その他の解熱鎮痛剤は、主治医に相談ください。

Q. 妊婦高血圧症候群、妊婦糖尿病等の合併症がある場合でも、接種しても大丈夫ですか？

患者さんにより合併症の状況が異なりますので、事前に産婦人科の主治医に相談の上、可能であれば接種することを御検討ください。

日本産婦人科感染症学会「新型コロナウイルスワクチン(mRNAワクチン)Q&A」より一部抜粋